

奈良大宮ロータリークラブ

Club Weekly Bulletin



- 創立：昭和54年1月23日
- 例会：毎週火曜日17:30
- 事務所：奈良市大宮町6丁目2-1
南都銀行大宮支店内 電話0742-33-8583
- 例会場：奈良市高畑町1096番地
奈良ホテル本館 電話0742-26-3300(代)
- 会長：中村信清 ■副会長：多田実 幹事：高野治

発行日 / 2015年9月1日
2015-2016/8

Vol.37

No. 1754

hp:http://naraomiya-rc.jp
E-mail: info@naraomiya-rc.jp

2015-16年度当クラブテーマ

『和と飛躍』



国際ロータリー第2650地区

ガバナー 中澤 忠嗣

「クラブに「個性」と「憧れ」を！」



四つのテスト

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

会長挨拶

最近めっきり涼しくなりましたが、皆様方、夏風邪をひかないようにご注意願って、出席頂きますよう宜しくお願い致します。

委員会報告

出席委員会：中條副委員長

大変出席率が悪うございます。私が「出席して下さいね」と言った途端に悪くなりました。もう言わないでいようかなと思いましたが、ロータリーは友情と親睦ですので、出来るだけ出席をお願いします。悪い方には、徐々に私の方から注意していきたいと思えます。

親睦活動委員会：鈴木副委員長

新入会員萩原さんの歓迎会を、来月15日例会終了後、奈良ホテルで予定をしております。出欠の名簿を回覧致しますので、まだ書いておられない方、もしくは×を○に変える方はご記入をお願い致します。

社会奉仕委員会：堀内委員長

先日(8月23日(日))に、第一回地区社会奉仕委員長会議に行っていましたので、ご報告致します。

内容は、講演会と、あとは表彰の事業報告がありまして、一部の『戦略的 朝恋トマトにかける元公務員』ということで滋賀県・浅小井農園の松村様に講演をいただきました。50代で市役所を定年退職なさって、その後、トマト農園を営んでおられるということで、8,000㎡のハウスの中でどれだけ効率よくトマトを作るか、ということをお話しされました。60代も半ばを過ぎたけど、まだまだこれから頑張っていく、ということでおっしゃっていただきました。後半は、昨年度下期のまちづくり基金の表彰事業の発表が5クラブ行われまして近い所では奈良ロータリークラブが春日の森の再生プロジェクトに携わっているということで発表をされておりました。

例会プログラム

第9回9月1日

通算1754回

1. 開会の点鐘
2. ソング
「君が代」「我らの生業」
3. お客様の紹介
4. 会務報告
5. 卓話
㈱タイムメン 代表取締役
社長 由井啓之様
6. 閉会の点鐘

例会状況報告

第8回 8月25日

通算1753回

- ◎会員総数 72名
- ◎出席義務者 46名
- ◎出席規定免除者(a) 0名
- ◎出席規定免除者(b) 26名
- ◎本日出席 53名
- ◎本日欠席 10名
- ◎本日出席率 83.87%

第6回 8月8日

通算1751回の修正

- ◎欠席者 18名
- ◎免除者の欠席者 14名
- ◎欠席者の補填者 11名
- ◎免除者の補填者 0名
- ◎出席率 87.93%

プログラム委員会：清岡副委員長

恒例となりました次回例会の卓話のご案内をしたいと思います。次回9月1日、講師は由井啓之様（株式会社タイムドメイン 代表取締役社長）でございます。演題としましては「従来のオーディオとの決別と創造」という題目で、皆さんご存知のビルゲイツも来日時にはヘリで生駒のラボに足を運ばれ、タイムドメインのスピーカーに大変感銘を受けられました。そして今日まで「こころのオーディオを世界に」を理念に、新しい技術と理論で、マニアの方から一般のユーザー、そして新たなインターネット時代にも対応できるオーディオのテクノロジーを、生みの親、由井社長にお話しいただきます。次回の卓話をご期待ください。

幹事報告

来週9月1日と再来週9月8日の例会ですが、例会場がこの下階の「大和の間」に変更になります。ご連絡しておきます。

卓話

堀金箔粉株式会社 代表取締役 堀 智行様 「ひとひらの金箔に永久の夢」

皆さん、こんにちは。堀金箔粉株式会社の10代目となります、堀智行と申します。今、ご紹介のなかで「ほりきんぱく」とか「ほりきんはく」とかご紹介もありましたけれども、正式名称は「ほりきんはくふん」と申します。なかなか呼びにくく、また長い名前で、誰も「ほりきんはくふん」と呼んでいただけの方はいなくてですね、自分たちでもこのロゴの通り、「ほりきん」と名乗っておりますし、取引先やご近所の方からも、「ほりきんさん」というふうに呼んでいただいております。京都で三百年続く金箔屋の主人といいますと、ほとんどの皆さんは、着物を着た非常に気難しい年寄りを想像されるようなんですけども、実際こうしてお会いすると「案外若いんですね」とか、「普通の人なんですね」というような、ちょっとがっかりされる感想をいただくことがあります。今、46歳なんですけれども、36歳のときに10代目の社長を引き継ぎまして、3年前に先代の父が亡くなりました。創業は1711年ということで、今年で304年になります。1711年という年は元号でいうと正徳元年といいまして、華やかな元禄時代の次、赤穂浪士の討ち入りの8年後、そういう時代背景だったようです。そこに近江今津のほうから一人の青年が京都に出てきて、金箔を打つ職人を始めた、それがうちの始まりのきっかけです。

今日お話しさせていただくことは、まず色々な方と初めてお目にかかって名刺交換をしたときに、「金箔屋さんですか」、「京都の金箔屋さんですか」、「何代目ですか」と、聞かれるようなことをまとめてきました。

私どもは決して大きな会社でもありませんし、大儲けしている会社でもなく、こじんまりとした経営を長く続けてきている、そういう会社です。皆さんの前でお話しするような立場ではないんですけども、お家に帰られたときにご家族の方とかご友人の方に、ちょっと話のネタを一つでも二つでも持って帰っていただければ有難いかなというふうに思っております。

私どもの商売の根本にあるもの、それがこの金、GOLDです。これ、1キログラムの金の地金なんですけど、持つと非常にずっしりと重いものです。水の20倍近い比重で、地球上にある物質のなかで最も重い物質の一つです。この黄金色に輝く色と、自然の条件のなかでは決して腐ったり変色したりすることのない金というもの。これは時代を越えて富と権力の象徴のようなもので、重宝されてまいりました。私どもはこの金の地金を加工して、薄く延ばす金箔を商売としております。この1キログラムの地金、今日現在の地金価格、これ一本、1キロいくらかご存知でしょうか？そうなんです、約500万円です。昨日の経済混乱があって、今日は480万円位に下がっておりますけれども、約500万です。1980年にロシアのアフガン侵攻のあったその時代、1ドル円が230円していたときは690万円の時もありました。1990年の地金価格、それから20年ほどでズンと金が下がってきまして、為替の問題もあるのですけれども、これが80万円の時代もありました。690万円になったり80万円になったりしながらも、どんどん金が上がってきて、今これが約500万。金は安定した資産とも言われていますけれども、決して安定したものではなくて、非常に変動の激しい、為替とか世の中の経済情勢、政治、色々なものによって変動するものでございます。原材料がこれだけ変動する、またお客さんが金の地金価格、原材料価格をご存知だという商売はなかなか珍しいので、本当に商売がしにくいのです。うちの家訓として、「絶対に金の地金



で儲けようとするな」と、うちは「あくまで金箔を加工させてもらって商売をする」、それがうちの商売だということ亡くなった父からも口酸っぱく教えられてきました。ちょっと金の余談になりますけれども、金の原産国は色々な国があるわけですが、一番採掘量が多い国はどこかご存知でしょうか？そう、南アフリカもずっとトップだったのですが、今は中国が産出量のトップになっています。というのは、金の採掘場所というのは非常に過酷な労働条件で、だいたい地下4000メートルの鉱脈となります。昔、チリで岩盤事故があって地下に100日もの間、閉じ込められたような、ああいう環境の中で金を採掘するわけです。ですから、日本にも金の埋蔵はあるのですけれども、なかなかそれを採取する人件費が合わないというわけで、埋蔵はあっても実際、今のところほとんど採掘はされてはおりません。4000メートルの地下というと、だいたい気温40度、湿度90パーセント、本当にそういう過酷な条件のなかで金は採掘されています。京都で私どもは300年続くということで、老舗さんと言われます。これは京都新聞の広告ですが、京都府から100年以上続く企業を老舗ということで表彰いただいております。奈良にもたくさん古い会社さんがいらっしゃると思いますが、京都で老舗として100年以上続く会社、表彰されているところは、だいたい今1100件あると言われていています。そのほとんどが従業員10人以下、年商10億円未満位の小さな規模の会社が多いと言われていています。例として、この尾張屋というお蕎麦屋さんですとか、松前屋という昆布屋さん、このあたりが500年を越える東西の横綱とされています。あと、京都で、古い会社として多いのは宗教関係、お寺とかお線香、お香をやられているところ、そういう宗教関係の会社さんですとか、それから食品、和装関係ですね、また、酒造関係、お酒。そういったところが老舗企業の多い業種となっております。ここに私ども、前頭筆頭位に堀金箔粉というのがあるのですけれども、まだまだ上には上がたくさんいらっしゃるということです。

私どもの会社の歴史を紹介させていただきます。これは明治元年に明治政府からいただいた、金箔打ちの許可証、免許証のようなものです。貨幣局からの許可証になります。当時、金の地金は自由に売買できなかったもので、政府から地金を支給されて、その支給された地金で箔を打ってまた戻すという、そういう仕事だったようです。明治以前ですね、うちの資料というのは残っておりません。というのも、明治元年に蛤御門の変というのが京都の市街戦で、あちこちで勃発したことで、うちの元々の場所も市街戦で焼けまして、今現在の場所に移ってまいりましたので、明治以降の資料しか残っておりません。これは明治の頃にうちの先祖が木版画で広告を作りまして、それを配っていたという資料です。

これは昭和初期、昔よくありました丁稚さんとか、女中さんとか、番頭さん、そんな人が皆で共同で暮らしながら仕事をしていたというふう聞いております。これは今から50年位前、1960年のうちの周辺なんですけれども、うちの会社の場所というのは、ここ京都の中心の通りである御池通というところの前にありまして、うちの真ん前が京都市役所です。

ここら辺に京都ホテルオークラというホテルがあります。ここが織田信長のお墓のある本能寺です。私どもの会社は、丁度ここに位置しております。御池通に面した非常に立地のいい場所にございます。うちの会社の商売というのはBtoBが多くて、95パーセントがBtoBなので、あまりこのような立地のいいところというのは必要ないのですが、こういうところで商売をしていることで非常に信頼をいただけること、就職のリクルート活動には苦勞しないという利点があります。ちょうどこの御池通が7月17日の京都の祇園祭、山鉾巡行が通る道です。去年から後祭と先祭が分れましたけれど、どちらもこの道を通ります。あと、時代祭もこちらを通ります。そういう場所に恵まれております。

うちの会社のポリシーというか、社訓・理念を説明させていただきたいと思っております。文書化された社是とか社訓とかは実際には存在しないのですけれども、亡くなった父から私に受け継がれたというか、いつも口にしていたようなこと、それを自分なりにまとめてみました。

まず、「和」、平和の和ですね。今現在の言葉でいうと「win-win」というか、「三方よし」というか、そういう意味のある「和」、皆仲良くという意味、これが一番の根っこにあるものです。その「和」というものがあって、そして「適正規模の経営」、「信用第一」、「伝統とは革新の連続」、この三つの言葉を父から受け継いでおります。「適正規模の経営」というのは、拡大することよりも継続すること、これを選択基準に置いております。リスクの分散、社運を揺るがすような投資をしたりしないとか、得意先も一件に多くのリスクが掛からないように、できるだけ分配すること。うちの売上の1位の得意先でもだいたい全体の5パーセント位の売上に留まっており、そのぶん、すそ野を広く商売しております。商品もいくつかのグループを作りまして、それを分散して、どこかが良かったらどこかが悪い、そういうところもあるんですけれども、分散した商品で成り立たせております。あと、金箔屋ですので絶対に信用第一、お客さんとの信頼関係ですね。うちは金を扱っているので、0.1グラム単位のビジネスとなります。うちが0.1グラムといえども、それよりも多くても少なくてもだめ、そういうところなんです。それから、お支払いとお給料、得意先へのお支払い、仕入れ先へのお支払いはきっちりと速やかに。まず支払ってから色々話をするということも、よく言われていました。ボーナ

スは6月15日と12月2日というふうに決められております。それは公務員よりも先に社員にボーナスを支払いたい、それをうちでは代々受け継いでいます。最近振込みになりましたけれども、今までは全部新札でボーナスも給料も払ってございました。自己資本とキャッシュ、うちは借金をしておりません。金というのは非常にお金の、元手のいる商売ではあるんですけども、借金せずに自己資本比率は85パーセント以上ございます。一時は利益を投資に回していくということをよく言われました。しかし、リーマンショックのようなことがあって思ったのですが、やっぱりキャッシュを持っていないと何かあったときに困ると。そんなときに、キャッシュを持ってさえいれば、たとえ一年間売り上げがゼロになったとしても会社は倒れないような、そういう財務内容をもっております。あと、「伝統は革新の連続」というのは、どんな老舗会社もそんなふうに言っていることで、あまり目新しい言葉ではないと思うのですが、とにかく今、手回しせねば雨が降る、今が良くても次の時代に備えられるように、常に次の自分のところの商品を見直して、改革し続けるということを中心掛けております。あとは金箔とか、うちの商品のメイン。色々な商品を扱っておりますが、やはり金箔・金粉というのが主な商品となっています。金箔とって思い浮かべられるのは、ほとんど皆さん金沢となるのではないのでしょうか。実際に今、日本の金箔の生産の99パーセント以上、ほぼ100パーセントとっていいほど、生産は金沢です。うちは京都で300年間、材料供給をしてきました。京都というのは色々なものづくりの町ですね。仏壇・仏具、それから和装関係、色々な絵画を描かれる先生方もたくさんいらっしゃいますし、陶器・漆器、色々なものづくりをする町です。そういう町の、ものづくりをされている方に材料供給をして、今まできました。これは金沢の職人なんですけれども、金箔を生産するときには一切機械化できません。こうして職人さんの勘で、このハンマーは機械ですけども、槌で打ち延ばしている。段々、最初地金から薄くして行って、伸ばしてはまた小さくして、移し替えてまた延ばす。この工程を10工程位繰り返します。だいたい1000枚一束、紙と紙の間に金箔を挟んで延ばしていきます。最終工程、これが10000分の1ミリにまで延ばされた金箔です。10000分の1ミリとていいますと、先ほど見せました1キロの地金、これを10000分の1ミリの厚さの金箔に延ばしますと、だいたい20メートル四方の金箔が出来上がります。それ位薄く、4グラム・小豆大の金の塊から畳一枚延びるといふふうに言われております。そして、ふっと息をかければ波打つほどの薄さ、デリケートな繊細な金箔となっています。金は高いものだから、できるだけ薄く延ばしてたくさん使おうというのが元々の考え方だと思います。それは、全世界共通するものです。延ばしたものを竹の道具で形を整えて、基準109ミリ角、三寸六分というのですけれども、その大きさの金箔を作ります。「箔」という字、この字なんですけれども、「たけかんむり」に「さんずい」に「しろ」と書きます。「たけかんむり」は箔を扱うのに金属のものをを使うと引っ付いちゃうんです。ですので、箔を扱うのは、これはお箸もそうですし、こういう切る道具とかも、全部竹のものを使います。そして、「さんずい」というのは、この箔を掴み作るのに非常にたくさんの水が要る、そういったことからこの箔という字が成り立っていると言われております。続きまして、金箔に対して、この金粉ですね。うちの世界では、泥の様に細かい粉末なので金泥と呼んでおります。先程形を整えた耳屑の部分、お肉でいう切り落とし、それをこうしてお皿の上で手で練り潰します。これは有田焼のお皿を使って、あと水飴とか、そういったものを混ぜながら練り潰していきます。なぜ有田焼のお皿でやるかという、有田焼の柄の凹凸、これが金を練り潰すのに丁度いいといわれています。こうして元の薄い金箔、10000分の1ミリの金箔の微粉末を作っていきます。何度もこうして練り潰したものを水で洗って、また金は沈んで、それを繰り返して、このようにまた乾燥させると、このような金粉になります。これ大体500グラムの金粉があるんですけども、0.1グラム単位で販売してございまして、大体このボウル一杯で500万円位になります。でも、本当に0.1グラムでどれだけ金というのは延びるか、その使える量というのは非常に多いものです。何に使うかといえますと、絵画ですとか、こういう蒔絵なんかに使われる顔料として使っていただいております。よく、金箔屋さんってどんなところに販売されているの、どんな商売なの、というふうに聞かれることがあるんですけども、元々昔から一番多い分野では仏壇・仏具、それからお寺関係、そういったところにたくさん使われています。あとは呉服、和装関係ですね、帯とか着物。そういった和装関係、絵画、色々なその他工芸品や芸術作品、そういうものに彩りを添えてきました。ところがですね、弓場さんの前で失礼な話なんですけれども、日本人のライフスタイルとか宗教心というものがどんどん変わってきていまして、今や金仏壇のある家がどんどん減っていきます。仏壇自体の市場はちょっとどうかかわからないんですけども、家具調仏壇になったり唐木仏壇になったり。なかなか今の家に金仏壇というのがマッチしなくなりましてですね、非常に金仏壇の市場というものが、私どもの方では減っております。もちろんこの和装関係、昔は着物を着ることも多かったし、バブル期に最盛期だったこの和装関係の市場は今やもうほぼゼロに近い位の市場に減ってきております。また、こういう工芸品や芸術作品というのも使われる量はあまり多くないので、どうやってうちの商売を続けていくかというところを模索しているところです。先程、伝統的なものの使われ方の他に

ですね、こういうアルミ蒸着箔というものを使ったこのフィルム、フィルムで転写する箔。これは鯉のぼりなんですけれど、こういう転写する箔から、お酒の中に入っている食品用に特化した金箔。この食品用に特化した金箔は、うちの得意分野でありまして非常にご支持をいただいております。こういうお菓子なんかにも使われております。あとは、顔に貼って美容に使ったりとか、そういう新しい使われ方、比較的こちらの方は新しい使われ方の金箔の用途です。京都のお土産物の一番人気のものといったら、あぶらとり紙、食品を除いては、あぶらとり紙が有名です。京都駅の夕方の東京行きのホームに立っている女性のほとんどが、よーじやさんの袋を下げておられます。それぐらい京都ではあぶらとり紙というのが人気のお土産になっています。あぶらとり紙の元祖というのは、先程も説明しましたこの金箔を打つときの紙なんです。この紙というのは手漉きの和紙に卵白・卵黄、それから灰汁とか柿渋、色々なものを浸み込ませて金箔と一緒に叩かれている、繊維が潰されるまで叩かれているものです。この紙の出来の良し悪しによって金箔の良し悪しも決まるといえるくらい、非常に重要な紙です。これで金箔を叩いた後、もうこれ以上叩けなくなって、向こうが透けて見えるくらいの薄さになったこの紙。この紙があぶらとり紙として重宝されております。今からうちの何代か前の先祖が祇園とかに遊びに行くときにですね、懐に職人さんが使い終わった金箔打ちの紙を持って行って、舞妓さんとか芸妓さんとかに配って遊んでいたそうです。舞妓さんとか芸妓さんは白粉が、顔を洗えないので、この箔打ち紙でお化粧直しをすると非常によく脂が取れたということで、「金箔屋さんの旦那さんの持って来はる紙は、非常にお化粧直しにいいわ」ということで、何代か前はとても祇園で人気があったそうです。私は全然人気がありませんけれども・・・。そういう紙です。今、よーじやさんとかで作られている、これは箔の生産したあとの副産物ということでなかなか商業ベースには乗りません。そういうふうには遊んでいたり、うちの金粉を包む紙として使っておりました。そこに目をつけられたよーじやさんは、これと同じような製法で、実際は箔は打たないけれども、同じ製法であぶらとり紙に特化して商売を続けられた、そういうふうになっております。それが金箔屋と京都と舞妓さん、あぶらとり紙、そういうものが結びつくお話です。これはアメリカのジョージ・ベンソンというミュージシャンのデビュー30周年の特別なギターを作りたいんだということで、ただ金を貼ったんじゃ面白くないので、西陣の帯を加工する職人さんに仕事をしてもらいました。ということで、全然関係ない業種のものづくりを結びつける、そういう事例ができました。そんなことから色々と、今まで箔を使われる方に材料供給してきた会社ですけれども、今度はうちでどんどん箔を使う立場になって、今まで使ってもらっていた職人さんに仕事をしてもらえば、まさに「三方よし」というか、「和」の精神に則れるのではないかなということ。色々な展示会に出まして、建築建材だとか、ものづくりのような展示会に出て新たな市場に出会うことが出来ました。建築建材ショーなんかに出て、色々なこれは高級住宅のなかの天井に金箔の装飾をしてほしいとか。これはうちが開発した塗料を施した神社の鳥居です。金色塗料というのは普通はすぐに黒くなるんですけども、変色を抑えた塗料、屋外でも強い塗料、金色の塗料を作りましたので、これを神社の鳥居に施ささせていただきました。モットーとしてはどんなものにでも、一つから金箔加工させていただくということで、金の加工を請け負わせていただいております。金箔を使ってうちの周りの職人さんに仕事をしてもらおう、そういう仕事をしております。レストランの内装ですとか、ブランドショップ、これは大阪のごみ焼却設備の上の金の玉です。こういうようなものもやらせていただいております。



「Power of GOLD」ということで。よく人から「金は食べるのと体にいいのか」とか、「貼ると白くなるのか」とか、色々な質問を受けるんです。僕らも色々調べたんですけども、実際に金というのは変質しない、消化も吸収もされないのが金の特色です。ですので、食べても薬にも毒にもなりませんし、貼ってもそれが白くなったりは絶対しません。しかし、「鯛の頭も信心から」といわれるように、そのことがいいと思って使っていただくことが何よりもいいこと

ですし、先程こうして金をパッと見ただけで皆さん何かこうにっこりとされたり、心がちょっと和やかな気持ちになられたと思います。そういう、人の心を解きほぐすというか、それが金の力ではないかなと思っております。金というのは唯一補色の関係のない色でもありますし、誰が聞いても金・銀・銅、金というのは一番を表す言葉でもあります。そういう意味からも、それが金の力ではないかなと思います。お時間が来ましたのでこの辺で結びたいと思います。私どもは決して物事の主役であるわけではなくて、主役に箔をつける脇役でずっとあり続けてきました。これからも主役を輝かせていける、そういう立場としてこの仕事を続けていき、まだまだこれから先もそういう時代に体を合わせて続けていけたらな、と思っております。ご清聴どうも有難うございました。



本日計 24,000円 累計 585,000円

中村信清 君	大分涼しくなってきました。皆様お変わりなく秋を向かえましょう。
高野 治 君	堀様、本日の卓話、宜しくお願いいたします。
中條章夫 君	ちょっとうれしい事がありました。ニコニコ
金星 昇 君	残暑お見舞申しあげます。ニコニコ
梅谷裕規 君	ニコニコ おかげさまで入会3年目に入りました。引き続きよろしくお願ひします。
倉田智史 君	ニコニコ協力
森 完二 君	ニコニコ協力
鈴木 譲 君	ニコニコ協力

例会変更のお知らせ

9 月

■奈良西ロータリークラブ■

・ 9月10日（木）・・・第1回家族親睦移動例会の為、
例会場変更。

※ビジター受付：同日、17：30-18：00まで奈良ロイヤルホテル
1Fフロント横にて。

・ 9月17日（木）・・・定款第6条第1節(C)により、休会。

※ビジター受付：行いません。

次回の例会

2015年9月8日(火)

卓話 社会福祉法人 奈良いのちの電話協会 理事長 小林茂樹 様

演題 いのちの電話と関わって